

博士人材の活躍に向けた産学官連携プラットフォーム サブ会合第2弾

～博士人材活躍のための**産学連携の取組拡大**に向けて～

日時

令和7年5月14日(水)14:00-16:00

産業界における博士人材の活躍に向けて産学による取り組みの好事例を取り上げ、**実現プロセス**等について詳細に学びます。そのうえで、産学が連携した**新たな取組の創出**に向けて、参加者同士で**意見交換・ネットワーキング**を行います。

こんなご担当者様へ

先進事例について、実現への道筋を詳しく知りたい

自組織で行いたい新たな取組の協働先を見つけたい



対象者

博士活躍促進に向けて、取組意欲の高い**企業・大学等すべて**

主に、博士人材の人事/博士課程教育を担当している担当者様を想定していますが、役員や管理職レベルの方も歓迎します。

開催方法

オンライン

会議情報は参加登録者にメールでご案内します

アジェンダ ※ 当日までに変更の可能性があります

14:00-15:00 (1時間)

挨拶 (佐藤 康博 博士人材の活躍に向けた産学官連携プラットフォーム主査 (みずほ
フィナンシャルグループ 特別顧問 / 総合科学技術・イノベーション会議 非常勤議員))

講演

産学で連携し先進的な取組を行っている企業・大学の担当者より、具体的なコストや成果、取組を実現するまでのプロセスやハードルについて、詳細にご共有いただきます。

内容：①**富士通株式会社「卓越社会人博士制度」の取組**

富士通(株) Employee Success本部 R&D人事部 輿 秀和 シニアマネージャー

②**北海道大学における博士人材育成の取組及び「博士人材育成コンソーシアム」の取組**

北海道大学 大学院教育推進機構 吉原 拓也 副機構長

※取組内容・登壇者の紹介は裏面ご参照

15:00-15:30 (30分)

フリートーク (参加任意・入退室自由)

登壇者へ参加者から質問を受け付け、講演内容につき自由に意見交換を行う場を設けます。

講評 (上山 隆大 内閣府本府参与)

15:30-16:00 (30分)

取組アイデア交換会 (参加任意・入退室自由)

希望制で、産学連携した新たな取組のアイデアを持ち寄り、意見交換できる場を設けます。

人事等の機微な情報を取り扱うため、本会合は一般非公開です。



取組・登壇者紹介

講演① 富士通株式会社「卓越社会人博士制度」の取組

取組概要

卓越社会人博士制度は、修士課程生が博士課程へ進学するタイミングで富士通の社員（社会人）として雇用することで、富士通の社員として給料を受け取りながら大学に残り、大学における博士課程での研究と富士通における業務としての研究に同時に注力してもらう取り組みです。大学と連携しながら、大学の修士課程の学生の中から希望者を募り、富士通との面談などを経てから三者合意のもとで行っています。



博士人材の活躍に向けた取り組みについて皆様と知見を共有し議論できることを楽しみにしています。

登壇者

輿 秀和

富士通株式会社 Employee Success本部 R&D人事部 シニアマネージャー

前職では、人事システムの導入・運用や、グループ全体の人事システム・人事制度企画を経験した後、事業人事部門にて、採用・人材開発・海外人事に従事。2014年から約6年間、英国にて海外統括会社（EMEA地域：欧州・中東・アフリカ）の総務人事責任者を務めた。2020年に富士通に転職後、本社人事（CoE）にてグローバルタレントマネジメントの制度設計を担当。現在はR&D部門のHRBPとして、博士人材の育成、活躍促進、採用に関する取り組みをリードしている。

ご参考記事：<https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00678/100900004/>

講演② 北海道大学における博士人材育成の取組及び「博士人材育成コンソーシアム」の取組

取組概要

北海道大学では学部から博士まで継続したキャリア教育、キャリア支援を実施しており、先端人材育成センターはそれらの内の博士人材育成を担当しています。博士人材がアカデミア、企業、公的機関等の幅広い選択肢を知り、自らのキャリアを切り開くための支援をしていますが、今回は特に企業とのマッチングに関する取組をご説明いたします。また、博士人材育成コンソーシアムは国公私立13大学が連携し、博士人材を育成しています。連携によるメリットやコンソーシアムを継続的に運営するためのコツ等をご紹介いたします。



登壇者

吉原 拓也

北海道大学 大学院教育推進機構 副機構長

北海道大学大学院原子工学専攻修了後、日本電気株式会社基礎研究所に入社。半導体プロセスの研究開発に従事した後、知的財産戦略の策定と実行に携わった。2003年に大阪大学より博士（工学）授与。2015年から北海道大学で博士人材の育成及び博士人材育成コンソーシアムの運営に従事。

個性的な博士が社会で活躍するためには出る杭を活かす環境とそれらとのマッチングが重要だと思っています。

